

第1回学校評議員・学校関係者評価委員連絡会 会議録  
(いじめ対策委員会を含む)

平成30年6月11日  
さいたま市立芝川小学校

1 給食について

- 大学の学食で感じた変化。
  - ・最近の子は外食に慣れて、塩分に鈍感になっている子が多い。
  - ・日頃から手作りを心がけることで家庭料理に近い味覚になる。
- さいたま市は全市で給食。
  - ・給食がない市町村もある。
  - ・共働きが増えている背景を考えると、日常的に弁当という負担は大きい。

2 いじめについて

- 平成30年度学校いじめ防止基本方針について生徒指導主任より説明  
質問：
  - スクールカウンセラーはどの程度いじめ対策に関わっているのか。  
⇒校内巡回をして気になる状況を事前に察知し、教員と共有している。  
教員や保護者にアドバイスするなど間接的にかかわっている。
  - いじめはどのように認知するのか。  
⇒保護者から相談を受けることが多い。
  - 子ども主体のいじめ対策はないのか。  
⇒代表委員が中心となり、児童集会等でいじめ防止について呼びかけを行う。
- 子どもたちは日常的にストレスを抱え、どう発現するか分からない。  
家庭・学校・地域が協力してストレスをなくすようにしなくてはいけないと感じる。  
時間に追われる生活を見直す必要があるのでは。
- 芝川小は子どもたちの気持ちを受け止め、HPや学校だよりなどで発信している。  
ただ、あいさつもいじめも、学校だけでは変わらないところまできている。  
地域・家庭との共通行動が必要。

3 子どもたちの変化

- 子どもたちが冷ややかになっていると感じる。忙しさから殺伐としているのでは。  
逆に大人は構い過ぎてしまう。
- 「これをやっておいて」が通じない。  
分からないが分からない。一つひとつ説明が必要な状態に。
- 家庭では、子どもの「ただいま」の声から様子をキャッチしたい。  
自分の子どもだけは理解したい。  
余裕ができれば、他の子どもも助けてあげられるようになりたい。

4 地域との関わり

- 学校と地域の連携とはいっても、切り離さなければならないこともある。
  - ・地域との関りには、不評も受け入れながら。
  - ・幸い、子どもたちの遊び声について「未来の宝」という声もいただいている。
- 学校だけに頼らず、地域で見えていけるかを考えなくてはいけない。
  - 老人会や婦人会などのネットワークも必要。
  - ・老人クラブは地域の細かいところまでよく知っている。
  - ・お母さんレベルの情報は、自治会では上がってきにくい。
  
- お母さん同士の子育てサークルは複数あるが、互いに繋がっていない。
  - ・繋がれば大きな力になる。
  - ・皆、自分たちの周りについて想像以上に知らない。

⇒「つなぐ」存在が必要。

誰に相談すればよいのか、分からない。
- 情報検索できる時代、Web がないと「存在しない」ことになってしまう。
  - ・おやじの会の活動など、よい取組をもっと参加できるといい。
  - ・そのために、見せられる場所と機会が必要。
  
- 地域の「夏祭り」
  - ・子どもたちは神輿やバザーで関わっている。
  - ・地域の行事を通して、情操教育が行われていると感じる。
  - ・同様に、チャレンジスクールでの関わりから挨拶してくれる子も多い。
- 「夜のホタル観賞会」
  - ・今年度は3, 0 0 0人以上の方が来校。地域の方も多かった。
  - ・地域へ発信していくよい機会では。
- 子どもの発信力をいい形に使うと、家庭・地域・学校をつなぐ接着剤になる。
- PTA として地域の活動に関わると、点が線になっていく。
  - ・接点が大事。関わる人は接点が増える。
  - ・それ以外の人たちの「誰かがやってくれるだろう」という気持ちが変われば…
  - ・「やって下さい」より、活動を楽しく。
  
- 地域ネットワークづくりが重要だと国も感じている。
  - 学校を核にして、地域の教育力を高めていく。
  - さいたま市では、10年前から地域ネットワークづくりを行ってきた。
  - 今後はさらに双方向で連携・協働に向けて推進していく。